

電気通信大学 平成19年度シラバス

授業科目名	言語科学論		
英文授業科目名	Linguistic Science		
開講年度	2007年度	開講年次	3年次
開講学期	前学期	開講コース・課程	昼間コース
授業の方法		単位数	2
科目区分	総合文化科目-上級科目-テーマ別セミナー		
開講学科・専攻	情報通信工学科 情報工学科 電子工学科 量子・物質工学科 知能機械工学科 システム工学科 人間コミュニケーション学科		
担当教官名	松原 好次		
居室	東1-807		

公開E-Mail	授業関連Webページ
eigokyoumu@bunka.uec.ac.jp	

<p>【主題および達成目標】</p> <p>(a) 主題： ふだん何気なく使っていることばを新たな視点から眺めると、思いもよらぬ事象が浮かび上がってくる。これをLA (=Language Awareness : ことばへの気づき)と呼ぶ。さらに、文化・社会・国家との関係で言語を批判的に眺めると、人間社会の支配-被支配関係が映し出されていることに気づく。これをCLA (=Critical Language Awareness : 批判的言語認識)と呼ぶ。「ことばへの気づき」から出発して、「言語に対する批判的な認識」を養うことが本科目のねらいである。</p> <p>(b) 達成目標： 大学における学習・研究だけでなく、日常生活のあらゆる場面で、ことば(言語)は大きな役割を果たしている。本科目の到達目標は、新聞・雑誌・テレビなどのマスメディア、インターネットやゲーム、広告や宣伝などで使用される具体的なことばに注目したうえで、そのようなことばがなぜ使われ、どのような効果を生み出しているかを理解することにある。特に、言語使用の背後に潜む力関係を認識することが最大の目標である。</p>

電気通信大学 平成19年度シラバス

【前もって履修しておくべき科目】

なし

【前もって履修しておくことが望ましい科目】

なし

【教科書等】

教科書：

飯野公一他著『新世代の言語学—社会・文化・人をつなぐもの』（くろしお出版）

参考書：

その都度、授業で紹介する。

【授業内容とその進め方】

(a) 授業内容：

第1回 LA及びCLAとは何か。

第2回～第8回 ことばの研究に対するアプローチをいくつか紹介しながら、言語学の概論を講義する。

第2回 音韻論：音韻変化と語源、広告に利用される頭韻と脚韻

第3回 形態論：語形成と語源、オノマトペと音の象徴性

第4回 統語論：補文の構造、規範文法と記述文法のちがい

第5回 意味論：旧情報と新情報、「は」と「が」のちがい

第6回 歴史言語学：世界の言語系統

第7回 言語人類学：言語的コミュニケーションと非言語的コミュニケーション

第8回 心理言語学：新生児の言語獲得、失語症

第9回～第15回 言語に関する個別の問題をいくつか取り上げ詳細に講義する。

第9回 姓名のローマ字表記：姓が先か、名が先か

第10回 差別語、差別表現：『ちびくろ・サンボ』は絶版すべきか

第11回 皇室報道の日本語：敬語使用の歴史

第12回 IT革命と言語生活の変化：グーグル検索とことばの経済価値

第13回 外国籍児童生徒に対する言語教育：必要なのは日本語指導か母語指導か

第14回 日本における英語にまつわる問題：小学校への英語教育導入、英語公用語論

第15回 世界各国の言語問題：シンガポールとマレーシアの言語政策、米国の英語公用語化運動・エボニックス論争、EUの言語教育政策、少数言語の再活性化運動など

(b) 授業の進め方：

下記(1)(2)の形態を併用する。講義・発表が一方向的にならないよう、質疑応答を重んじる。

(1) 上記のテーマに沿って講義を行なったのち、ディスカッションをとおして言語及び言語にまつわる問題に関する理解を深めていきたい。

電気通信大学 平成19年度シラバス

(2)教科書の目次を見て、興味を持ってそうなテーマを各自が1つ選び、リサーチしたのちクラスで発表する。(若者ことば、敬語、死語、地域語、インターネット検索のキーワード、宣伝・広告のことば、など)

【成績評価方法及び評価基準(最低達成基準を含む)】

(a)成績評価方法：

発表(50%) + 期末試験の評価点(50%)

(b)評価基準：

以下の到達レベルをもって合格の最低基準とする。

(1)日常の言語事象を批判的な観点からリサーチし、クラスで分かりやすく発表することができる(発表)。

(2)日本及び世界各国が抱えている言語にまつわる諸問題の本質をつかむことができる(期末試験)。

【オフィスアワー：授業相談】

金曜日 12:30~13:00

【学生へのメッセージ】

「言語科学」という科目名には重苦しい響きがありますが、ことばを新たな視点から眺めると、楽しい発見があります。

【その他】